

若者のライフスタイル研究（４）

非行および問題行動に対する
高校生の意識と実態 Ⅲ

（財）社会安全研究財団委託調査研究報告書

平成１２年３月

若者のライフスタイル研究調査委員会

はじめに

私たちは、平成9年度から現代の若者の独特な行動やライフスタイルを、彼らの対人行動を軸に、さまざまな視点から明らかにするための調査研究を行っている。

一昨年の神戸の少年Aの事件以来、ナイフを使った少年非行があいついでいる。新聞などでは、「ふつうの少年」が突如非行に走る、突然「キレた」状態になって暴力を振るうと報道している。しかし、非行をした少年たちはけっして「ふつうの少年」とは考えられないし、全ての少年が突然「キレル」とも思えない。彼らの生育歴、とりまく環境の中に、非行に走った要因が隠されているに違いないと思うのである。

一方、中高生を中心とする非行は全体として増加の傾向を示しており、戦後第三のピークを迎えようとしている様相である。しかも、たとえば「オヤジ狩り」などと称される強盗事件や、テレクラなどを利用した援助交際など性を手段とした金銭・高額商品獲得への傾斜、覚醒剤などの薬物乱用といった、従来目立たなかった非行が急増している。

青少年の問題行動への対応策を検討するためには、まず青少年のありのままの姿を正確に把握することが、最も基本的かつ重要な第一歩であると考える。

本年度では、現代青少年の問題行動に対する意識と実態について明らかにするとともに、さまざまな背景要因との関連を検討するため、調査地域および調査対象数を拡大して調査研究を実施した。

これらの調査結果が、今後、現代青少年の問題行動対策のための有効な資料となれば幸いである。

平成12年3月

若者のライフスタイル研究調査委員会

代表	有元 典文	(川村学園女子大学)
	大塚 由希	(野口クリニック)
	岡部 大介	(昭和女子大学)
	関口 茂	(横浜国立大学)
	宮戸 美樹	(銀座メンタルクリニック)

目次

第1章 研究の概要	1
第1節 研究の目的	1
第2節 調査の枠組み	1
第3節 調査の方法	3
第1項 調査対象者	3
第2項 調査方法	3
第3項 調査時期	3
第4項 調査内容	3
第2章 結果	14
第1節 問題行動の実体験の有無	14
第1項 飲酒経験の有無	14
第2項 無免許運転の経験の有無	14
第3項 自転車やバイク窃盗の経験の有無	15
第4項 万引き等の経験の有無	15
第5項 恐喝の経験の有無	16
第6項 暴行の経験の有無	16
第7項 薬物乱用の経験の有無	17
第8項 性行為を伴わない援助交際の経験の有無	17
第9項 性行為を伴う援助交際の経験の有無	18
第10項 性行為強要の経験の有無	18
第2節 問題行動に対する意識	19
第1項 飲酒に対する意識	19
第2項 無免許運転に対する意識	20
第3項 自転車やバイク窃盗に対する意識	20
第4項 万引き等に対する意識	21
第5項 恐喝に対する意識	22
第6項 暴行に対する意識	22
第7項 薬物乱用に対する意識	23
第8項 性行為を伴わない援助交際に対する意識	24
第9項 性行為を伴う援助交際に対する意識	24
第10項 性行為強要に対する意識	25
第3節 「友人の問題行動」に対する姿勢	26
第1項 「友人の飲酒」に対する姿勢	26
第2項 「友人の無免許運転」に対する姿勢	26

第3項	「友人の自転車やバイク窃盗」に対する姿勢	27
第4項	「友人の万引き」等に対する姿勢	28
第5項	「友人の恐喝」に対する姿勢	28
第6項	「友人の暴行」に対する姿勢	29
第7項	「友人の薬物乱用」に対する姿勢	30
第8項	「友人の性行為を伴わない援助交際」に対する姿勢	30
第9項	「友人の性行為を伴う援助交際」に対する姿勢	31
第10項	「友人の性行為強要」に対する姿勢	32
第4節	問題行動と背景要因との関連	33
第1項	問題行動と道徳的人生観との関連	33
第2項	問題行動と感情的冷淡さとの関連	35
第3項	問題行動と学校に対する意識との関連	37
第4項	問題行動と学校での交友関係に対する意識との関連	39
第5項	問題行動と学校での教師との関係性との関連	41
第6項	問題行動と友人への同調行動との関連	43
第7項	問題行動と自己認知との関連	44
第8項	問題行動と現実目標との関連	45
第9項	問題行動と理想目標との関連	47
第10項	問題行動と自己存在感のなさとの関連	49
第11項	問題行動と自我機能『総合・統合機能—支配・有能性』との関連	51
第12項	問題行動と自我機能『現実感覚』との関連	53
第13項	問題行動と自我機能『衝動統制』との関連	55
第14項	問題行動と自我機能『対象関係』との関連	56
第15項	問題行動と自我機能『防衛機能』との関連	58
第16項	問題行動と自我機能『刺激障壁』との関連	59
第17項	問題行動と自我機能『自律的機能』との関連	61
第18項	問題行動と自我機能『現実検討』との関連	63
第19項	問題行動と親しい友人(同性)の有無との関連	65
第20項	問題行動と親しい友人(異性)の有無との関連	67
第21項	問題行動と親子関係(父親)との関連	68
第22項	問題行動と親子関係(母親)との関連	70
第3章	本研究調査の総括	72
第1節	問題行動の実態と意識	72
第2節	学校生活への適応感と問題行動	73
第3節	友人関係・親子関係と問題行動	74
第4節	パーソナリティ特性と問題行動	76

付表 (単純集計表)